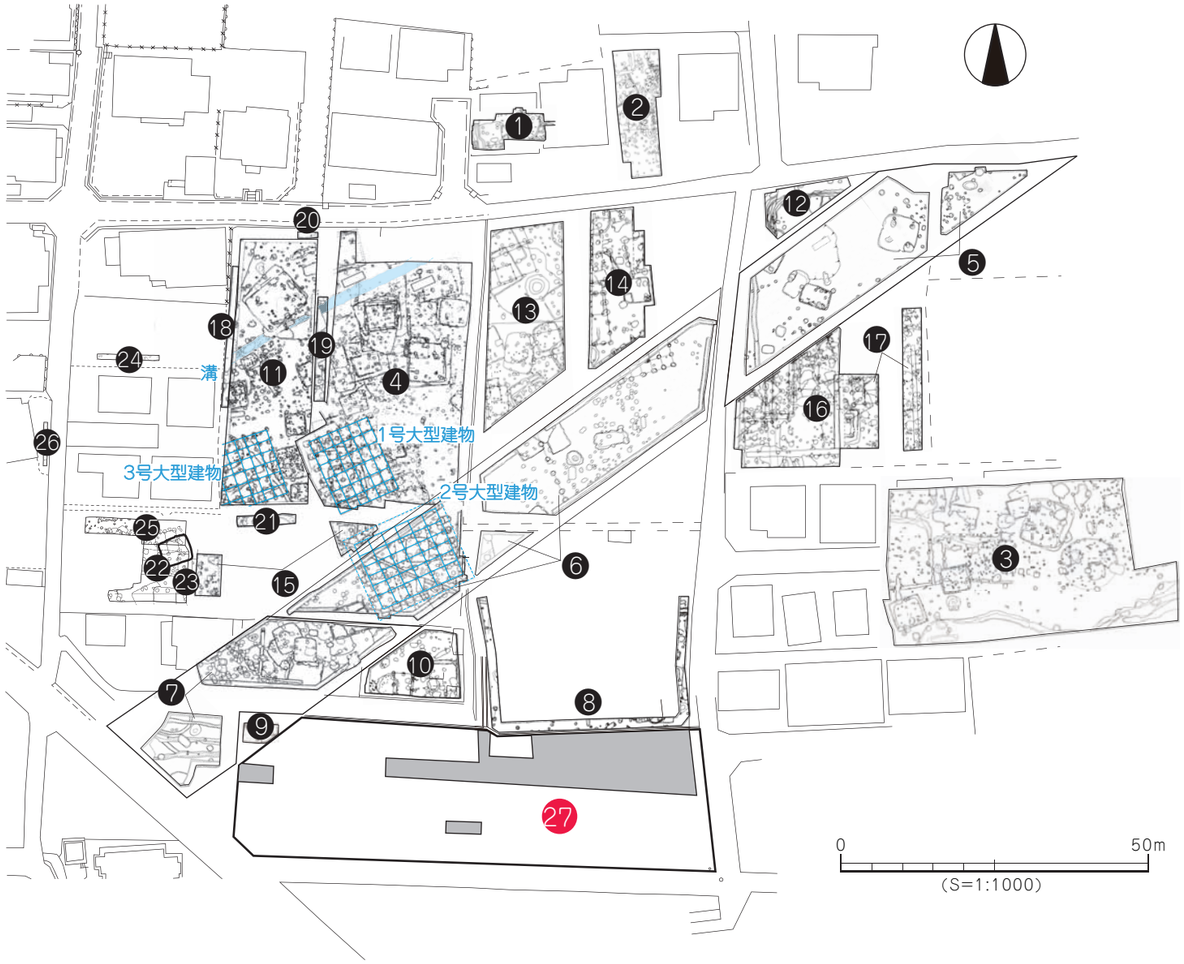
樽味四反地遺跡２３次調査

現地説明会資料

平成２３年７月２３日（土）　午後１時３０分～

財団法人松山市文化・スポーツ振興財団
埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー



❶ 樽味高木2次調査地　❷ 樽味高木13次調査地　❸ 樽味四反地5次調査地　❹ 樽味四反地6次調査地
❺ 樽味四反地7次調査地　❻ 樽味四反地8次調査地　❼ 樽味四反地9次調査地　❽ 樽味四反地10次調査地
❾ 樽味四反地11次調査地　❿ 樽味四反地12次調査地　⓫ 樽味四反地13次調査地　⓬ 樽味四反地14次調査地
⓭ 樽味四反地16次調査地　⓮ 樽味四反地17次調査地　⓯ 樽味四反地18次調査地　⓰ 樽味四反地19次調査地
⓱ 樽味四反地20次調査地　⓲ 樽味四反地21次調査地(Ⅰ区)　⓳ 樽味四反地21次調査地(Ⅱ区)　⓴ 樽味四反地21次調査地(Ⅲ区)
㉑ 樽味四反地21次調査地(Ⅳ区)　㉒ 樽味四反地22次調査地　㉓ 樽味地区確認調査地(G区)　㉔ 樽味地区確認調査地(H区)
㉕ 樽味地区確認調査地(I区)　㉖ 樽味地区確認調査地(J区)　㉗ 樽味四反地23次調査地(本調査地)

図１　調査地周辺の遺跡分布図

樽味四反地遺跡２３次調査の概要

所 在 地	松山市樽味四丁目 225 番 1、225 番 2、226 番 1、226 番 4 の各一部
調査期間	平成 23 年 5 月 6 日～平成 23 年 7 月 29 日
調査面積	約 250.88 m^2
調査主体	財団法人松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター

１．周辺の遺跡

樽味四反地遺跡は、石手川中流域南岸に位置し、これまでに２２回の埋蔵文化財の調査がおこなわれ、縄文時代から中世までの遺構と遺物を多く検出しています。特に本調査地北側でおこなわれた四反地６次・８次・１３次の調査では、古墳時代はじめ頃の大型建物３棟が発見され、大きな話題となりました。この樽味四反地遺跡がある樽味地区は松山市の中でも有数の遺跡地帯として知られています。

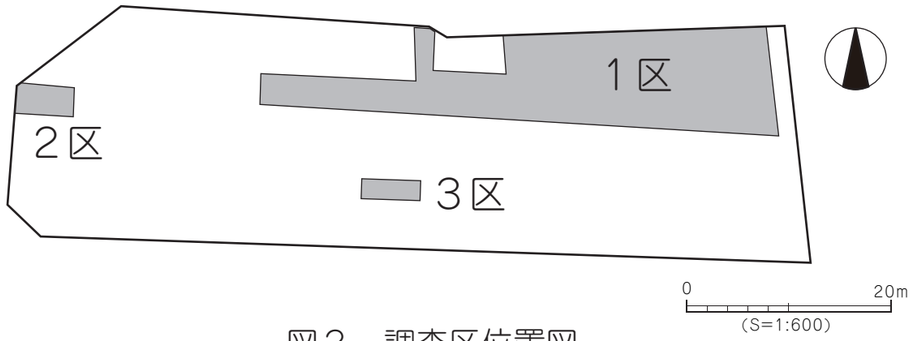


図２　調査区位置図

写真１：１区全景（西より）

写真２：作業風景１（北東より）

写真３：作業風景２（東より）

２．今回の調査で見つかったもの（途中経過）

調査では、竪穴住居４棟、溝２条、土坑５基、柱穴約３０基が見つかりました。時代は、弥生時代、古墳時代と考えられます。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、石製品、装飾品、鉄製品などが出土しています。中でも、竹管状の装飾文様のある紡錘車は、松山平野では初めての出土です。この紡錘車が出土した竪穴住居 101 からは、その他に須恵器の小型壺と打ち欠かれた高坏が出土し、紡錘車と合わせて、住居廃絶に伴う祭祀の様相を確認することができました。

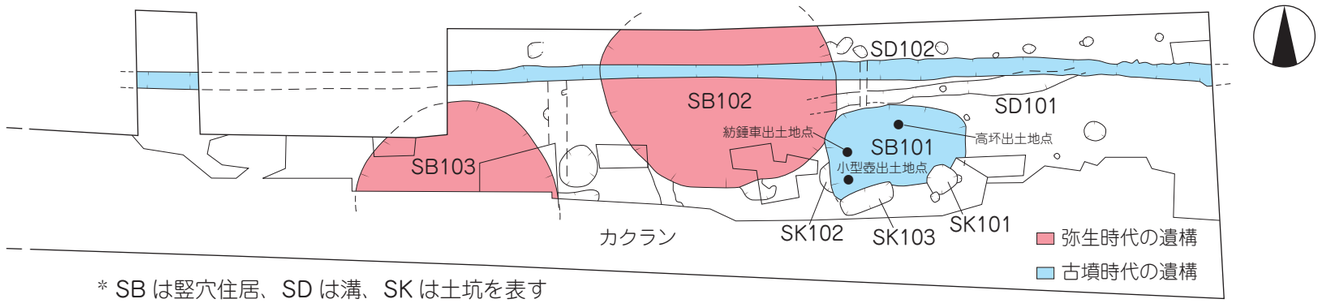
写真 4：装飾文様のある紡錘車（SB101 出土）

写真 5：SB101 遺物出土状況（北西より）

写真 6：SB101 須恵器小型壺出土状況（北より）

写真 7：SB101 須恵器高坏出土状況 1（西より）

写真 8：SB101 須恵器高坏出土状況 2（西より）

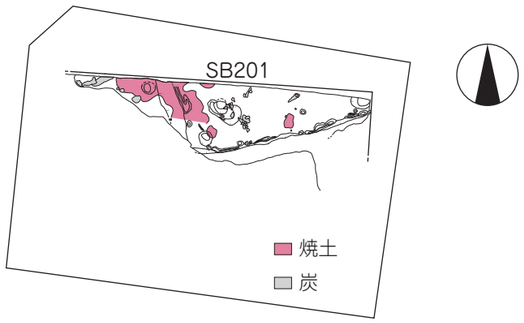


＊ SB は竪穴住居、SD は溝、SK は土坑を表す

図３　　１区遺構配置図

0　5m
（S=1：200）

写真 12：遺物出土状況（東より）



0　2m
（S=1:80）

図４　　２区遺構配置図

写真 9：SB102 遺物出土状況（西より）

写真 10：SB101 遺物出土状況（北西より）

写真 11：SB101 土師器甕出土状況（北西より）

［用語解説］

竪穴住居・・・・当時の地表面から数十ｃｍくらいに掘り窪められたもの。平面形は方形・長方形・楕円形・隅丸方形などがある。

溝・・・・・・・狭く小さい一種の水路、あるいは堀。

土坑・・・・・・人間が土を掘り窪めてできたと考えられている穴。

紡錘車・・・・・糸を紡ぐ際に用いる道具。円盤形・円錐台形（笠形）・算盤玉に似た形状のものなどがあり、いずれも中央に孔が貫通する。径は４～６ｃｍくらいの大きさで、素材は木製・石製・土製・鹿角製・骨製がある。

『1998　日本考古学用語辞典　学生舎』より

紡錘車の中央の孔に棒状の軸を通して使用

紡錘車を使って糸を撚る様子（復元図）

『弥生の布を織る』ー機織りの考古学ー　竹内晶子
東京大学出版会　　1989
『ミュージアムコレクション』 Vol.1
田原本町教育委員会　　2007　　より